

公表:令和3年 3月 22日

事業所名 社会福祉法人 北ひろしま福祉会 つなぐ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			利用定員10名に対して、道の基準を満たして運営しております。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			常時5~7名の職員を配置して、子どもの特性に応じて人数を増やして支援しております。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			段差のないフロアや手すりの設置、車いすスペースが確保されています。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			全職員が(非常勤を除く)が自分の目標管理シートを作成し、業務を1年間計画的に進められるようにしています。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			1年ごとにアンケート調査を行い、業務や療育内容の改善につなげていきます。評価表の結果に関しては職員間で情報共有し、改善していくことを前提に話し合いを行っていく予定です。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			公開しております。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			法人として取り組んでいます。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			事業所として派遣する研修以外にも、職員自ら参加したい研修があった場合は参加する機会を保障し、積極的な自己研鑽の機会を設けています。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			6か月ごとに支援計画書を作成する際に、保護者様との面談を行っています。お子様と保護者様のニーズに沿って計画を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			障がい特性や余暇のバリエーション等のアセスメントシートを作成して日々の療育に活用しています。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			全スタッフが職員会議に携わり様々な角度からの意見を取り入れながら活動内容を計画しています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			4つの全体療育を日替わりで行い、個別療育はお子様一人ひとりの状態像と発達段階に合わせて毎日組み立てています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長時間の利用の際にすべてをきめ細やかに設定できているわけではありませんが、一日の中で、大きく3つの時間(午前、お昼、午後)で分けて活動プログラムを構成するようにしています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			4つの全体療育を日替わりで行い、個別療育はお子様一人ひとりの状態像と発達段階に合わせて毎日組み立てています。

⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		<p>日案を掲示板に貼り出して情報の共有化を図っています。出勤時間や業務内容で職員同士のすれ違いが多いため、メールや書面での確認が多くなってしまいますが、現場でのコミュニケーションを積極的に行い、状況に合わせて連携が取れるように工夫しています。</p>
---	---	---	--	--

	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎サービスや業務内容で職員同士のすれ違いが多いため、できていない時もあります。メールで必要な情報の共有化を図るなど不足している部分を補う工夫をしています。ほんの少しの時間でもその日の振り返りができるよう業務の整理を行うことで、よりきめ細やかな支援が行えると考えています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録を毎日残しながら、会議等のミーティングの場で支援の検証や改善につなげるための大切なツールとして活用しています。
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6か月ごとに支援計画書を作成する際に、保護者様との面談を行っています。その中でフェイスシートやアセスメントシートの見直しを行いお子様と保護者様のニーズに沿って計画を作成しています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	○			ガイドラインの項目を大筋参考にしながら支援計画を作成しています。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			お子さまの担当職員と児童発達支援管理責任者の2名が必ず参加するようにしていますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から今年度は最少人数で参加することがありました。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			必要に応じて学校側との連携を図っています。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	支援実績なし。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			過去に利用していた児童発達支援事業所から情報共有させていただきなど、必要に応じた連携を図っています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			情報共有していく書式の見やすさなどを今後検証していく必要はありますが、福祉サービス事業者との連携は十分に取れていると感じています。（同一法人への移行者が多いのも上手くいっている理由の一つだと思います。）
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			北広島市こども発達支援センターや札幌市自閉症発達支援センターおがらの機関支援を導入し、お子様のことや事業に関することの助言をいただいています。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか			○	意識的にかかわる機会を保障しているわけではありませんが、市内の公園を利用しているときに子ども同士が自然と遊べるように支援者が仲介して遊びを発展させることがあります。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	支援実績なし。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時や連絡ノートの記入の仕方を工夫しながら丁寧に対応しています。必要に応じて個別面談を設けゆっくりお話を聴く時間も設けています。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止から実施できませんでしたが、令和3年度の実施に向け計画を進めています。

保護者	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時にご説明させていただいております。また、行事などでの実費負担についても都度ご家庭に連絡をして、了解をいただいております。
-----	----	-----------------------------------	---	--	---

自 己 の 説 明 責 任 等	③①	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			送迎時や連絡ノートの記入の仕方を工夫しながら丁寧に対応しています。必要に応じて個別面談を設けゆっくりお話を聴く時間も設けています。
	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から実施を見合わせております。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			できることとできないことはありますが、できる限り対応整備できないかを検討させていただいております。そのうえで難しいことに関してはお応えできないこともあります。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月広報誌やホームページに活動の様子を掲載しています。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○			契約時に個人情報の取り扱いについて同意を得ています。職員もそれを遵守していくことを心掛けています。
	③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもの発達段階に合わせて情報伝達の方法を工夫しています。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からボランティアの募集を見合わせております。
非 常 時 等 の 対 応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			職員の研修を行い、実際の場面を想定した訓練を実施しています。保護者様への周知は行き届いていない部分もあるため、情報発信を工夫していきます。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			今年度は2回実施しています。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			2か月に1回の会議を設けるとともに、法人として年に1回権利擁護・虐待防止研修を実施しています。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			現在身体拘束と言える対応が必要なお子様はいませんが、対応に迷ってしまったりこれは適切な支援なのかを考えることがあります。日々の支援現場や職員会議や身体拘束ゼロへ運営委員会にて、しっかりと職員同士で協議できる風土を作っていきたいと思っております。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	アレルギー情報をいつでも確認できるように支援計画書の中にとじておくのではなく、様式を工夫していつでも確認できるような工夫が必要であると感じています。
④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか			○	ヒヤリハットの事象が発生した際は職員会議の場で事象の検証やモニタリングを行っております。	

○この放課後等デイサービス自己評価表は、放課後等デイサービスの事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」又は「いいえ」のいずれかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。